

Kirshbaum

－高崎市における未就学児童のいる家庭を対象とした体験移住集合住宅－

大竹研究室

01712078 設楽 樹

1. 背景と目的

COVID-19 の影響で、人の過密を避ける「新しい生活様式」への転換やテレワークの普及が進んでいる。都市部で生活する若い世代の間で“大都市より密集が少ない地方への移住”に関心が高まっている。

しかし、実際に移住となると、仕事や住まい、子供の学校のことなどを総合的に判断する必要がある。

そこで本研究では、高崎市の移住制度・子育て支援制度に加え交通の便が良いことから、未就学児童のいる家庭を対象とした体験移住集合住宅を設計する。移住希望者が、数年間の体験移住¹⁾を通して、まちの雰囲気や生活に便利な環境が整っているかなどを確認した上で、本格移住したくなるような住宅を計画する。

2. 高崎市への移住について

高崎市は東京圏からの移住を支援しており、「高崎市移住支援金制度」を実施している。また、待機児童ゼロを実施し、中学生 3 年生以下の児童を対象とする医療費助成制度が設けられるなど、子育て支援に力を入れている。さらに、高崎市は自動車・電車共に交通の便に優れた都市である。

高崎駅は「高崎線」「湘南新宿ライン」「北陸新幹線」「上越新幹線」などが通り、電車で都内への通勤・通学や買い物も可能である。「関越自動車道」「北関東自動車道」「上信越自動車道」と 3 つの高速道路も通っていて新潟・長野方面でのレジャーも満喫できる (図 1)。

このように、高崎市の移住制度・子育て支援制度に加え交通の便が良いことから、未就学児童のいる家庭を対象とした体験移住集合住宅を設計する。移住希望者が、数年間の体験移住を通して、まちの雰囲気や生活に便利な環境が整っているかなどを確認した上で、本格移住したくなるような住宅を計画する。

3. Kirshbaum とは

タイトルの「Kirshbaum」は、ドイツ語で桜を意味する。

本計画地は、西側が桜の丘になっている。春には賑わいがあるが、夏から冬にかけては、閑散としている。ドイツは、移民を取り入れている国である。

春の賑わいのある空間が年中続くように、高崎市で人々が快適に移住生活を送れるように、Kirshbaum とした。

4. 設計概要

本研究では、群馬県高崎市城山町の住宅地内の敷地を対象とし、未就学児童がいる家庭に対応した建築計画、子育てをしながらのテレワークに対応したワーキングスペースを提案する。また、住民同士のコミュニティが発生する空間を提案し、地方居住への孤独の解消や、定住についての情報交換の場に繋がりたい。

屋根は桜の花びらが散って重なる様を表現した。

歩車分離できるように車の進入経路を一方通行とし、住居の外側に駐車スペースを設け、内側に中庭を設けた。

また、未就学児のいる家庭を対象としているため、段差のない一階建てとし、テレワークに対応できるようワーキングスペースを設置した。住宅内のワーキングスペース、リビングを中庭側に設置することで、中庭で子供たちが遊んでいる様子を仕事や家事をしながら眺められるように計画した。

中庭は集合住宅の共有スペースであるため、住民同士のコミュニティが発生し、定住についての情報交換の場になる (図 2、3)。

5. おわりに

COVID-19 の影響により我々の生活自体が脅かされている。いつ終わるかわからない脅威に対して、

どう向き合っていくのが重要である。そのことについて各自がよく考え、意識して行動するきっかけになることを望む。

【参考文献】

- 1) at home:おためし体験移住, <https://www.akiya-athome.jp/contents/63,2020.11.4> 閲覧

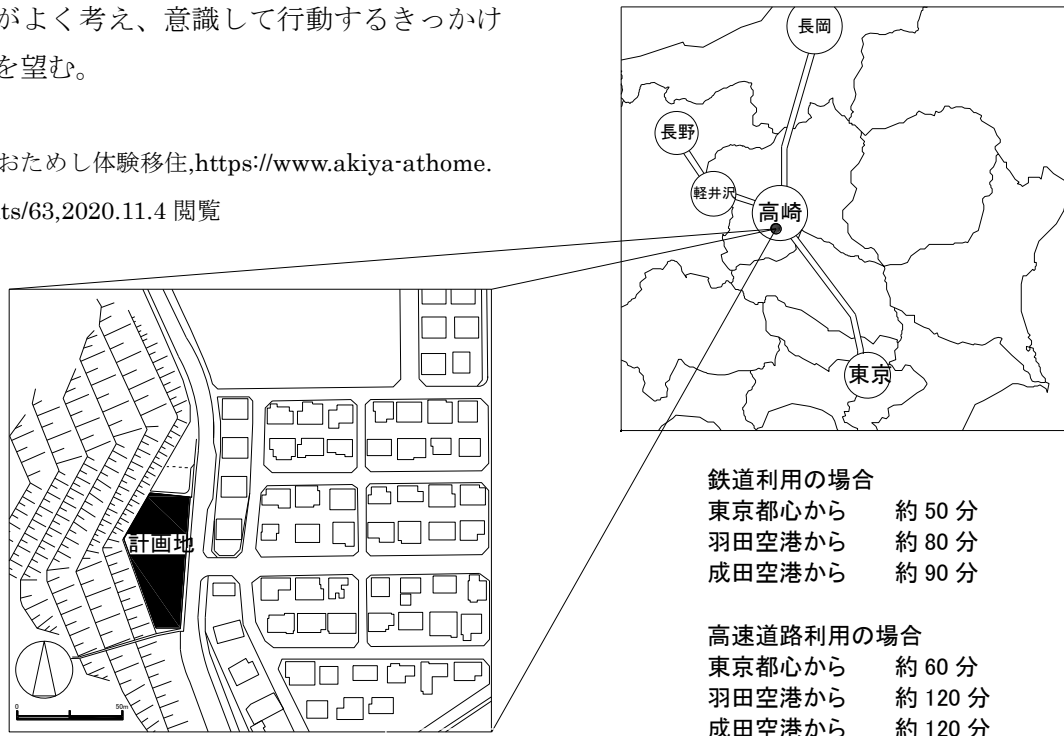


図1 計画地周辺図

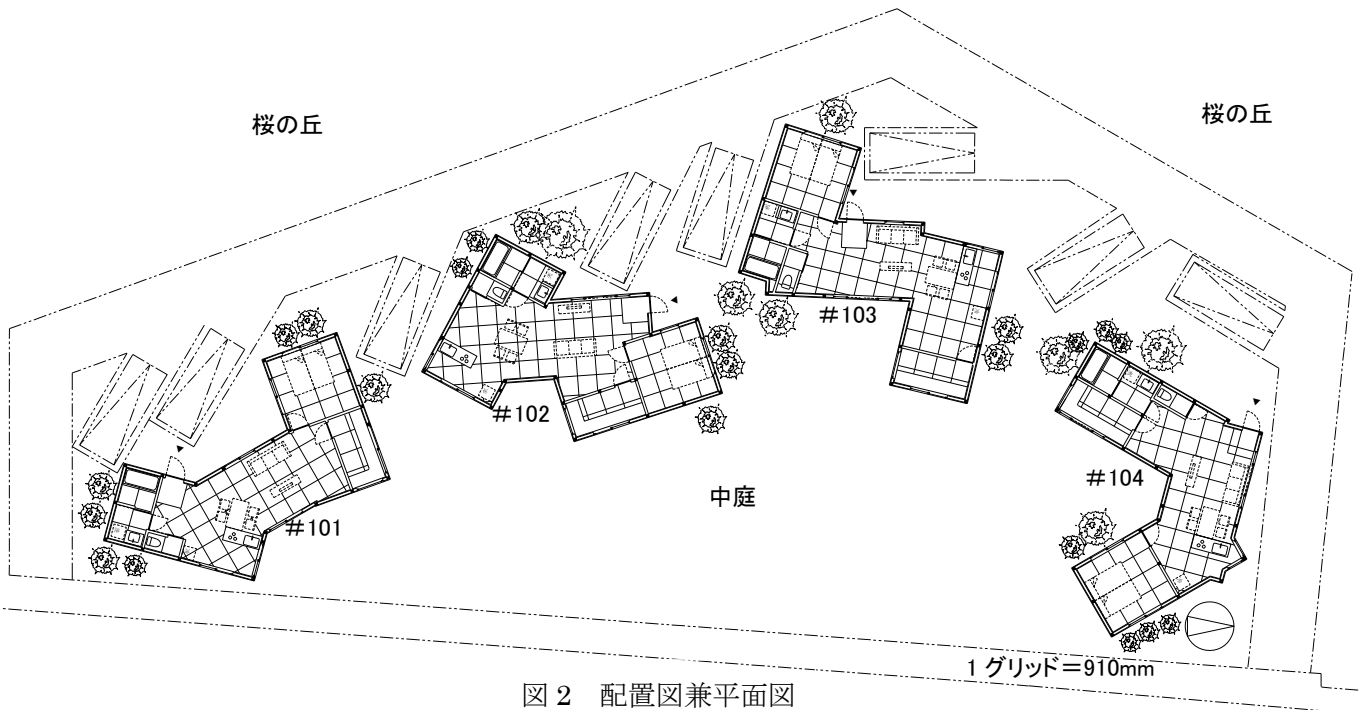


図2 配置図兼平面図

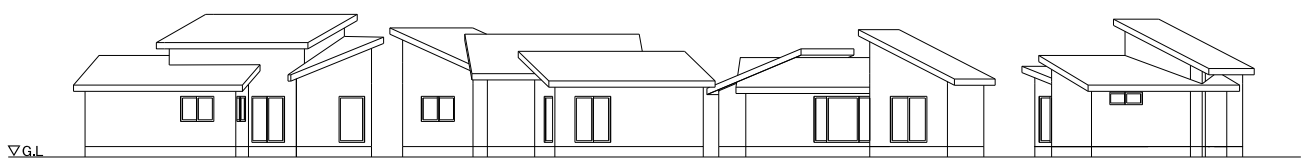


図3 東側立面図